

[成果情報名] 台木の種類が「はるみ」の生育、収量、果実品質に及ぼす影響

[要 約] 隔年結果性が強い「はるみ」の台木を「シングルシトロメロ」にすると、慣行の台木であるカラタチよりも隔年結果が軽減され、生育、収量、果実品質は同等である。

[キーワード] はるみ、台木、隔年結果

[担 当] 静岡農林技研・果樹研セ・新商材開発研究

[連絡先] 電話 054-334-4853、電子メール kaju-kenkyu@pref.shizuoka.lg.jp

[区 分] 果樹

[分 類] 技術・普及

[背景・ねらい]

「はるみ」は高品質果実が生産されるが、カラタチ台では隔年結果性が強い性質がある。そこで高品質果実の安定生産を目指し、適性のある台木を選抜するために「はるみ」の5年生から10年生樹までの生育および収量、果実品質に各種台木が及ぼす影響について検討した。

[成果の内容・特徴]

1. 「はるみ」の樹の大きさは「トロイヤーシトレンジ」、「シングルシトロメロ」台、Kn・P48台がカラタチ台より大きい傾向であったが明らかな差がない(図1)。
2. 年ごとの収量および5年間の累積収量は重量、果数とも明らかな差がなかった。また、隔年結果の強度は「シングルシトロメロ」で小さい傾向にある(図2、表1)。
3. 果実品質については、糖度、クエン酸は明らかな差がない(表2)。

[成果の活用面・留意点]

1. 苗木生産には「シングルシトロメロ」の種子を確保する必要がある。
2. 隔年結果をより効果的に軽減するには、摘果や剪定など、他の栽培管理技術を組み合わせる必要がある。

[具体的データ]

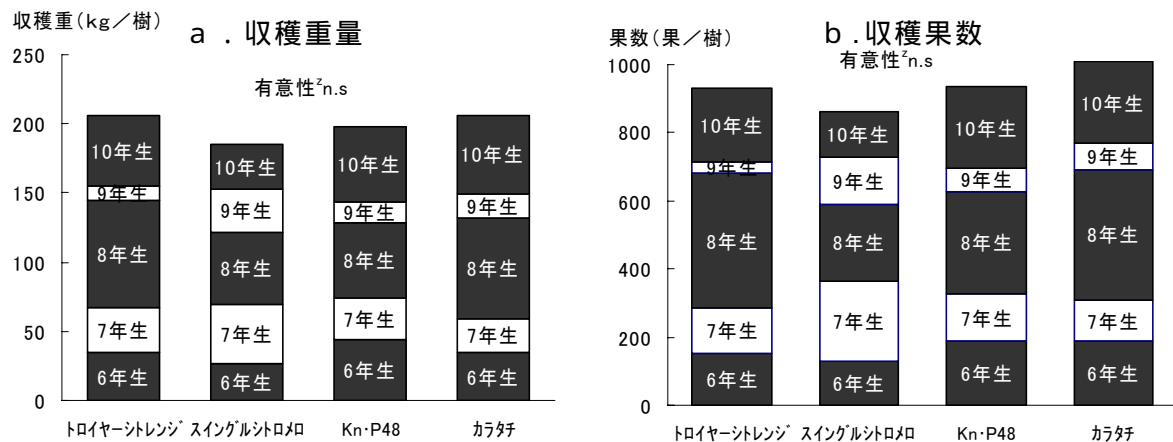
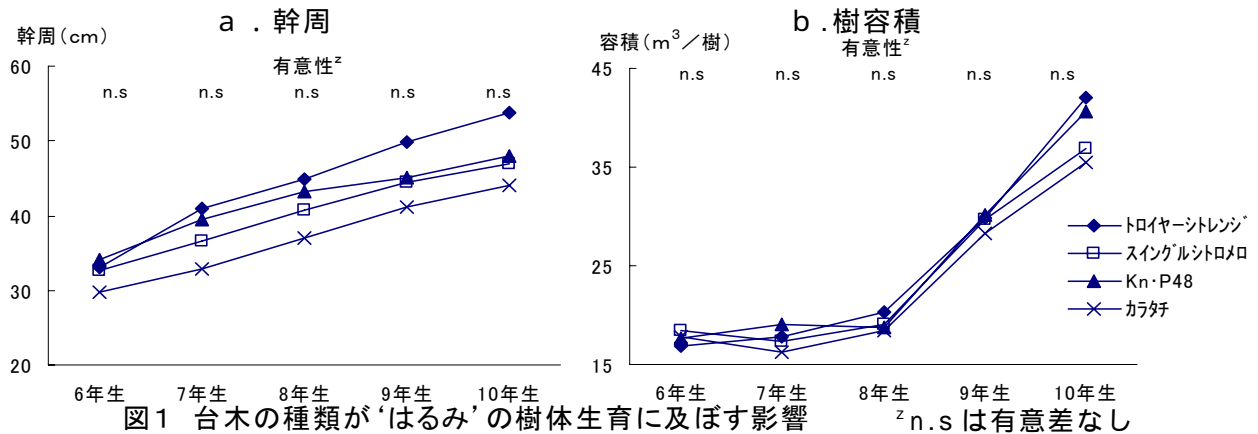


図2 台木の種類が収量に及ぼす影響^z n.s.は有意差なし

表1 台木の違いが隔年結果強度に及ぼす影響

台木の種類	隔年結果強度 ^z	^z 移動平均値 (W) = (前年収穫重量 + 当年収穫重量 × 2 + 次年の収穫重量) / 4 収穫重量の年次変動の大きさ (V) = (当年収穫重量 - W) の絶対値 / W × 100 隔年結果強度 = V / N
トロヤー-シトレンジ	51.9	
シングルシトメロ	12.3	
Kn-P48	40.8	
カラタ	50.2	

表2 台木の種類が‘はるみ’の果実の糖度およびクエン酸に及ぼす影響^z n.s.は有意差なし

台木の種類	糖度						クエン酸 (%)					
	6年生	7年生	8年生	9年生	10年生	平均	6年生	7年生	8年生	9年生	10年生	平均
トロヤー-シトレンジ	12.4	10.8	11.0	12.7	11.6	11.7	0.85	0.89	1.16	0.78	1.02	0.94
シングルシトメロ	12.3	11.6	11.9	12.1	11.6	12.0	0.82	0.97	1.21	0.95	0.96	0.98
Kn-P48	13.1	10.9	11.8	13.0	11.8	12.2	0.89	0.94	1.11	1.02	1.08	1.01
カラタ	12.3	11.2	11.9	12.2	11.3	11.9	0.90	0.84	1.28	0.99	1.08	1.00
有意性 ^z	n.s.	n.s.	n.s.	n.s.	n.s.	-	n.s.	n.s.	n.s.	n.s.	-	-

[その他]

研究課題名：省力化安定生産に適した台木品種の開発

予算区分：県単

研究期間：2003～2007年度

研究担当者：馬場明子、佐々木俊之